

「あなたはどの視点に共感しますか？」

# 一般質問

## くらし

### 杉森 賢二議員の視点



人口減少高齢化が進む日本において外国人が活躍できる環境整備は必要不可欠で地域でどのように受け入れるかが重要だ。



外国人にやさしい英語表記を加えた案内標識（鮎壺公園内）

## 外国人コミュニティ多文化共生の展開は

### 答弁 生活実態を把握し困り事を把握していく

#### 外国人観光客対応を

**問** 外国人視点の、町が取り組むインバウンド関連事業は。

**答** 令和6年度、JR三島駅から下土狩駅周辺までの歩行者案内サインの整備を計画している。三島駅北口周辺の宿泊施設を利用する外国人観光客に対し、鮎壺の滝や割狐塚稲荷神社などへ誘導するため、外国語表記を施すなど、インバウンドに対応した取り組みを図っていく。

#### 外国人の受け入れ施策を

**問** 外国人労働者人材確保に向け、県や商工会、企業団体との意見交換など連携を。また、企業と労働者に対する支援策を。

**答** 商工会では、会員事業所に対し、外国人労働者の雇用方針や雇用状況、雇用する場合の課題など、外国人労働者に関するアンケートを実施する予定で、その調査結果を情報共有し、企

業及び外国人労働者に対する支援を近隣市町の状況を確認しながら研究していく。

**問** 外国籍児童・生徒に係る就学支援を。また、受け入れ体制に対する整備の充実を。

**答** 日本語支援が必要な児童生徒に、県の日本語支援の職員や静東教育事務所の外国語支援訪問などを通じた個別支援により、学校生活に支障がない程度の日本語能力を身につけている状況にあることから、今後も外国籍の児童生徒の状況に注視し、適切な支援が行き届くよう努めていく。

**問** これまでになかった考え方や文化を取り入れることで生まれる相乗効果が見つかるかと期待しているが、これから求められる共生施策など町の多文化共生の展開は。

**答** 町の第5次総合計画で「町内在住の外国人が暮らしやすい環境整備の推進」を掲げており、地域の日本人と外国人がお互い理解しながら暮らしやすい

町となるよう多文化共生施策を進めていく。まずは、日本語教室の継続的な開催により、町内在住外国人の生活実態を把握し、困りごとなどを把握していく。

**問** 少子高齢化により年金などの社会保障を支える人口が減少している現状では、外国人の受け入れは社会保障制度の維持に必要な人口を増加させるため、メリットが大きいと考える。町の将来を見据えた外国人受け入れに對しての考えは。

**答** 不足する労働力を外国人の方々の受け入れで対応している状況は町内企業の関係者から聞いているが、社会保障制度を成り立たせるための人口増を目的とした外国人受け入れの観点は、国策として取り組むべき事柄と考えている。将来的な人口減少、労働力不足といった課題への対応の必要性を否定するものではないが、現段階では自治体として、町が積極的に外国人を受け入れるための取り組みに先陣を切っていくことは考えていない。